

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 80 2016/4/14

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。このメールが不要な方は、お手数ですが【管理者からのお知らせ】に掲載しているメールアドレスにご連絡ください。このメールアドレスは配信専用のため返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第80号の内容はこちらです。

■ご挨拶

建築研究本部長挨拶

■北総研からのお知らせ

平成29年度に採用する研究職員（建築・都市工学）を募集しています
 人事異動情報

■イベントのお知らせ

平成28年北方建築総合研究所研究成果報告会を開催します

■最近の研究所の動き

新規採用職員から一言
 60周年記念北総研フォーラム終了のお礼
 構造計算適合性判定センターから
 四半期業務報告

=====
ご挨拶
=====

■【建築研究本部長挨拶】

この春、建築研究本部長、北総研所長に就任しました鈴木です。

私が北総研の前身である北海道立寒地住宅都市研究所に入ったのが平成3年、北総研が寒地建築研究所としてスタートして昨年度で60周年、そして、「道総研」として独法化して早いもので6年が経過しました。

この間、北海道、日本、そして世界では進化と衰退が進行し、いま、私たちはこれまで経験したことのない問題に直面しています。簡単には答えが見つから

ない難しい課題が多い時代だからこそ、長いスパンで現に起きている事象を見据え、ネットワークを最大限活用し、确实、着実に“かたちにする”ことが求められており、研究機関は、これまで以上に、知恵とこれまで培ってきた経験を活かし、失敗を恐れず社会へ提言する役割を果たさなくてはなりません。

当本部が最も得意とする「環境負荷を低減する建築・まちづくりの実現」、「良質・安全な暮らしを支える建築・まちづくりの研究」、「地域と産業を支える建築・まちづくりの研究」の3分野のほかに、その分野からの見地のみでは解決し得ない地域・環境が直面する複合的課題にも、職員一同、積極的に取り組んでいるところです。

建築研究本部そして北方建築総合研究所は、将来を見据えた創造力豊かなふるさと創りを目指して市町村、北海道、国はもとより地域に暮らす様々な方々、フィールドとしっかり連携し、当本部の研究力と道総研の総合力を最大限活かしながら、課題を価値に変える様々な取り組みに励んでいきたいと考えておりますので、今後ともご指導、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

建築研究本部長兼
北方建築総合研究所長 鈴木 大隆

=====
北総研からのお知らせ
=====

■平成29年度に採用する研究職員を募集しています(建築・都市工学)

道総研では研究職員を募集中であり、当北方建築総合研究所では「建築・都市工学」の分野で3名を採用予定です。
ご関心のある方は、ぜひ、北総研又は道総研本部までお問い合わせ下さい。

- 受付期限 平成28年6月14日(火)
- 第1次試験日 平成28年7月3日(日)
- お問合せ先 北方建築総合研究所 総務課(0166-66-4211)
道総研本部 経営企画グループ(011-747-0055)

※詳しい募集要項はこちらからご覧になれます。

↓↓↓
<http://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/index.html>

■人事異動情報

- ◆3月31日付退職
 - 能勢 淳彦 (構造計算適合性判定センター長)
 - 中川 國義 (総務部長兼総務課長)
 - 十河 哲也 (企画調整部長)
 - 丹野 正豪 (総務部性能評価課主査(評価第一))
 - 入江 雄司 (総務部性能評価課主査(評価第二))
 - 中村 暢 (環境研究部建築技術G)
- ◆4月1日付転出
 - 須田 敏則 (建築研究本部長兼所長)
 - 西澤 拓哉 (環境研究部長)

櫻田 秀幸 (総務部性能評価課長)
 清水 浩史 (企画調整部企画課長)
 田邊 竜二 (総務部総務課主査(総務))
 植松 武是 (環境研究部建築技術G主査(建築システム))
 村田 さやか (環境研究部環境G)
 酒井 康子 (総務部総務課)
 杉森 弘忠 (企画調整部企画課)

◆ 4月1日付転入

田中 淳一 (副所長)
 椿谷 敏雄 (構造計算適合性判定センター長)
 永田 務 (総務部長兼総務課長)
 高橋 信二 (企画調整部長)
 古屋 剛 (環境研究部長)
 十河 哲也 (総務部性能評価課専門研究員)
 杉山 淳一郎 (総務課主査(総務))
 林 昌宏 (主査(評価第一))
 河原崎 政行 (主査(建築保全))
 清水 文香 (総務部総務課)
 酒井 亜希子 (企画調整部企画課)

◆ 4月1日付新規採用

下ノ 蘭 慧 (環境研究部環境G)
 高山 純一 (環境研究部建築技術G)

◆ 4月1日付所内の動き

鈴木 大隆 (副所長→建築研究本部長兼所長)
 渡邊 和之 (地域研究部居住・防災G主任研究員→総務部性能評価課長)
 廣田 誠一 (環境研究部建築技術G研究主幹→企画調整部企画課長)
 戸松 誠 (地域研究部主査(地域計画)
 →地域研究部居住・防災G主任研究員)
 谷口 円 (環境研究部建築技術G主査(建築保全)
 →環境研究部建築技術G研究主幹)
 糸毛 治 (環境研究部環境G主査(建築環境)
 →環境研究部建築技術G主査(建築システム)
 兼総務部性能評価主査(評価第二))
 北谷 幸恵 (企画調整部企画課主査(指導支援)
 →環境研究部環境G主査(建築環境))
 牛島 健 (地域研究部居住・防災G研究主任
 →地域研究部居住・防災G主査(地域計画))
 立松 宏一 (環境研究部環境G研究主任
 →企画調整部企画課主査(指導支援))

=====
 イベントのお知らせ
 =====

■平成28年北方建築総合研究所研究成果報告会を開催します。

平成27年度に終了した研究課題等の研究成果報告会を次のとおり開催いたし

ます。具体的なプログラムなど詳細については、決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

開催日時：平成28年6月10日（金）10：00～17：30（予定）
会場：旭川市大雪クリスタルホール（旭川市神楽3条7丁目）

（企画課 盛永）

=====
最近の研究所の動き
=====

■新規採用職員から一言

4月1日付で環境研究部環境グループに配属となりました、下ノ 蕨（しものその けい）と申します。学生時代は宇都宮大学院で「オフィスビルにおける自然換気導入による省エネ効果」について研究を行っていました。北海道の住宅は本州の住宅に比べて断熱性能が高く、建築環境の分野から非常に興味を持っていました。北海道での研究に携わらせて頂けることをうれしく思っています。
社会人1年目でまだまだ分からないことが多いですが、1日でも早く皆様のお役に立てるよう努力して参りますのでよろしくお願い致します。

（環境G 下ノ 蕨）

4月1日付で環境研究部建築技術グループに配属となりました、高山純一です。大学でコンクリートについて学び、その後、コンクリート用化学混和剤メーカーに就職し、3年働いていました。出身である北海道に戻り北海道に恩返しできること、大変うれしく思っています。早く実力をつけ、一人前の研究員になれるよう頑張りたいと思います。
どうぞよろしくお願い致します。

（建築技術G 高山）

■60周年記念北総研フォーラム終了のお礼

去る3月25日、北方建築総合研究所を会場として北総研の設立60年を機会に「北総研フォーラム～北海道の住まい・まちづくりのこれからを考える」を開催いたしました。当日は、90名を超える多くの皆様のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。心よりお礼申し上げます。
第1部の講演・パネルディスカッションはもとより、第2部の施設見学、ポスターセッションにも多くの方々が参加され、北総研の調査・研究・技術支援等の実績とこれからの展望などについて、幅広い視点からご紹介できたものと考えます。今後ともより一層皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

（企画課 盛永）

■構造計算適合性判定センターから

□3月の判定業務

受付 17件 (23棟)
結果通知 9件 (12棟)

3月の判定依頼は、共同住宅4件、事務所5件、倉庫・工場3件、その他5件でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均日数は16.6日（前月比+3日程度）、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均日数は7.0日（前月比+1日程度）となり、年度初めから着工を予定している物件が増加するのに伴い、それぞれ判定に係る日数も増えてきている傾向となっています。

受付状況は昨年度が17件22棟であり、概ね前年並みの数値となりました。今後も審査の円滑化を図り、道内の申請者の皆様に1件でも多く依頼いただけるよう、取り組んでいきたいと考えております。

昨年末からニュースで取り上げられたいわゆる「杭問題」ですが、本年3月4日に平成28年国土交通省告示第486号が告示され、基礎ぐい工事について適正な施工を確保するために講ずべき措置についてその方法等が明らかになっております。また告示を受け（一社）日本建設業連合会では『既製コンクリート杭施工管理指針』を策定し公開しており、（一社）コンクリートパイル建設技術協会では『既製コンクリート杭工法の設計施工要領（プレボーリング工法編）』を作成し、4月1日より販売を開始したようです。

すでに公開されている『既製コンクリート杭施工管理指針』を斜め読みすると最も肝心な部分と思われるデータの取得や記録の保存については施工サイクルタイム記録、電流計・根固め液の記録及びセメントミルク強度の記録等は建物の存続期間、原則電子データで記録することとなり、アナログ式記録機械の使用については専属の記録係員を配置することが明文化されています。またヒューマンエラーの防止や記録に失敗した場合の対処方法などが記載されています。

（構造判定G 本間）

■四半期業務報告

□依頼試験等（担当：性能評価課）

依頼試験 6件（累計69件）
設備使用 7件（累計22件）
性能評価 3件（累計15件）
課題対応型 1件（累計 1件）

□施設見学（担当：企画課）

件数 23件（累計 69件）
人数 60名（累計440人）

□技術相談（担当：企画課）

件数 35件（累計237件）

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所